

平成 20 年 6 月 3 日

報道機関 各位

## 「池袋副都心の未来計画」共同記者会見のご案内

平素より豊島区政並びに区広報活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、この度、6 月 14 日に副都心線の開通を控え、池袋副都心の未来計画（グランドビジョン）についての共同記者会見を下記のとおり開催いたします。

今般の記者会見は、地域の各界代表や、プロジェクトのパートナーの方々との協働により実施し、生まれ変わる池袋を「まちぐるみ」でアピールしたいと考えております。是非ともご臨席ください。

なお、ご多忙中に大変恐縮ではございますが、当日ご出席・ご欠席の別等につきまして、下記により 6 月 6 日（金）までにご連絡くださいますよう、お願いいたします。

豊島区政策経営部広報課長

### 記

1. 日 時 平成 20 年 6 月 10 日（火）午後 2 時～3 時（予定）
2. 会 場 豊島区役所本庁舎 4 階 議員協議会室
3. 次 第
  - (1) 豊島区長からのメッセージ
  - (2) 地域からのメッセージ
  - (3) 質疑応答

<お問い合わせ> 豊島区広報課報道グループ

＝副都心線開通に向けて＝

## 「池袋副都心・グランドビジョン 2008」共同記者会見

平成20年6月10日(火) 14時

於：豊島区役所 議員協議会室

### 次 第

- 1 開会
- 2 区長からのメッセージ
- 3 地域からのメッセージ
- 4 質疑応答
- 5 閉会

### 《配布資料》

#### ◎ 池袋副都心・グランドビジョン 2008

- 1 東京初のLRT導入とパーク・アンド・ライドによる歩行者優先ゾーンの創出
- 2 高密度都市から発信する低炭素社会実現への挑戦(環境モデル都市への提案概要)
- 3 都市更新期を捉えた未利用エネルギーの活用
- 4 「都市再生緊急整備地域」申出区域内における都市再生プロジェクト
- 5 池袋西口駅前広場の整備(イメージ)
- 6 新庁舎整備構想

○出席者名簿

○座席表

## 「池袋副都心・グランドビジョン 2008」共同記者会見 高野区長挨拶

都内では、六本木・秋葉原・丸の内そして臨海部などのまちが注目されています。

来る14日の副都心線の開業によって、池袋・新宿・渋谷は埼玉県・神奈川県と結ばれます。三つの副都心が互いの魅力と個性を磨きあう新たなステージを向かえ、それぞれのまちの今後の発展に、大きな期待が寄せられています。

新たな首都圏の大動脈の誕生を喜ぶ一方で、池袋は、30年前にサンシャイン60ができて以来、開発が遅れていることから、通過駅となってしまうことを危惧する声も聞こえてまいります。

しかし、私は副都心線の開業は、池袋副都心の再生のための又と無いチャンスと思っています。

私の公約は、「文化と品格を誇れる価値あるまち」の実現です。

18年かかった東池袋4丁目開発が昨年完成したところですが、来館者数ではおそらく公立図書館で1～2を争うトップクラスの区立中央図書館と劇場「あうるすぽっと」との連携により、新しい文化発信の拠点となりました。

長い時間がかかりましたが、このような積み重ねの結果、最近ようやく池袋西口・東口各々の地域で、様々な再開発の機運が生まれつつあります。

東京発のLRT導入、新庁舎整備・跡地再開発、池袋西口駅前まちづくり等、「人と環境へのやさしさ」をコンセプトにした、新たな池袋副都心のグランドビジョンがハッキリと見えてきました。

私は、池袋副都心の再生には、ライバルである新宿・渋谷とは違った、差別化とも言うべき、特性あるまちづくりを進めていくことが大切であると思います。そのためには、まちの皆さんが共有している、今までの池袋のイメージを変えていきたいという強い想いを、具体化していくことです。

豊島区は、つい先日、16年ぶりで人口26万人を突破しました。区の人口密度は、中野区と並び、全国で1番高い水準となっています。

また、池袋駅の一日の平均乗降客264万人となっており、これも新宿駅と並んで全国で1番高い水準です。

このように豊島区は、経済活動の活発な日本一の高密都市であり、環境負荷についても最大の都市と言っても良いでしょう。

だからこそ、豊島区は、正面から、環境対策に取り組んでいかなければならないと考えております。

今、次の世代へ負の遺産を送らないよう、地球全体での環境対策が大きな課題となっています。

来月には、わが国で洞爺湖サミットが開催されますが、これは全世界を挙げての環境対策の場でもあります。

このサミットに向けて、全国の自治体から10都市を選定して「環境モデル都市」を指定するとの発表が国からあり、我が豊島区も手を挙げ、挑戦したところであります。豊島区の提案としては、LRTを活用した新交通システム、環境対策の一環として池袋駅周辺へのクルマの流入を抑えることによる二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量の削減、繁華街の中心にある清掃工場の排熱利用、環境庁舎など、地球環境にやさしい、人にやさしいものでしたが、昨日、第一次選考に選ばれたとの、うれしいニュースが届きました。

全国82都市が応募した中での選考でしたので、難関を突破したことは大変喜ばしいことですが、これからが正念場です。地域エネルギーを最大限に活用して、歩いて楽しみ暮らせる低炭素社会への挑戦を、高密都市である豊島区から発信してまいります。

さて、副都心線の開業によって、池袋はどう変わるのか。これから、どんなまちを目指すのか。

単なる通過駅となる危機感を「まちぐるみ」で共有することによって、官民が一致団結して協力することこそ、池袋を大きく変える、千載一遇のチャンスなのです。

本日は、マスコミの皆様の前で一人ひとりが、自分たちの地域まちづくりの役割を、短い時間ですが一言ずつ発表させていただき、トータルでグランドビジョンを示したいと思えます。

時間の関係もありますが、17名と、大変大勢の方々での発表です。この17名は、各界の代表、あるいは官民一体で進めるプロジェクトのパートナーです。

それでは、副都心線開業をあと4日に控える中で、これらの地域の方々と一緒に、チーム「オール池袋」として「まちぐるみ」での決意表明をさせていただきます。

